

学会報告

日本フードシステム学会

清水 純一

2004 年度日本フードシステム学会は 2004 年 6 月 19 日～20 日の 2 日間、千葉県松戸市にある千葉大学園芸学部と聖徳大学を会場にして開催された。

初日には千葉大学を会場に「フードシステムにおける主体間関係の展開方向」と題したシンポジウムが開催された。

二日目には聖徳大学に場所を移し、二つのセッションと個別報告が行われた。

また大会前日の 6 月 18 日にはエクスカッションが実施されたが単なる見学に終わるのではなく、「地域から農と食と環境を考える」と題した地域シンポも開催された。

この意欲的なプログラムからもわかるように、本大会は同学会が発足して 10 年経過したことを踏まえ、新たな方向性を模索するという開催校の千葉大学斎藤修教授の意欲が色濃く反映されたものとなった。

特にシンポジウムでは座長 2 人（斎藤修、東京大学 中嶋康博）自身もそれぞれ報告を行い、都合 6 人もが報告するという異例なものとなった。

4 人程度の報告者でも総合討論の時間が不足し、続きは懇親会だというのが常なのでこの報告者の数では消化不良になるのではないかと危惧したが、中身が濃くレベルの高い議論が展開された。

参考までにシンポジウム各報告のテーマを書いておこう。座長解題の後の報告は以下の通り。

1. 「食品産業の経営戦略と農業との連携」（斎藤修）
2. 「食生活の変化とフードシステム」（中

嶋康博）

3. 「食品産業の国際化と東アジアフードシステムの形成」（東京大学 木南章）
4. 「食品産業の経営戦略の新展開」（日本大学 清水みゆき）
5. 「パルシステムの産直方針と食と農の運動」（首都圏コープ事業連合 山本信司）
6. 「情報システムの革新とフードシステム」（中央農業研究センター 河野恵伸）

紙幅の関係ですべての報告内容に触れることはとてもできないので今回の大会で特に目についた話題に関して紹介したい。

それは「クラスター」という概念である。この術語はシンポジウムの斎藤報告・木南報告、セッションにおける阿久根優子（名古屋市立大学）報告、および個別報告中 2 報告の中に登場した。

クラスター理論の提唱者はハーバード大学の経営学者ポーターである。彼はクラスターを「ある特定の分野に属し、相互に関連した、企業と機関からなる地理的に近接した集団」と定義し、イノベーションによる競争優位性の源泉と捉えている。

斎藤報告ではクラスターの形成が農業・食品産業サイドにおいてグローバリゼーションに対応する地域レベルでの競争力拡大のために必要だとしてこの議論を検討した。また木南報告では空間経済学と対比しつつ理論面に重点をおいて検討が行われ、東アジアフードシステムの形成との関連で議論がなされた。

浅学にしてこの概念のどこに新規性があるのか良くわからないが、学会の個別報告に付物の流行廃りを考えると、来年の学会ではクラスターが流行しそうな予感がする。

ところで、当学会にはあらゆる報告に質問し、服装も斬新で有名な名物の熟年婦人がおられる。今回も大いにご活躍された。だが不思議なことに、この方が誰でどういう経歴なのか誰も知らないという。かつて消費者運動に携わっていた方なのではないかと推測するのがせいぜいである。次の学会にも登場していただけるのか若干楽しみではある。